

平成 29 年第 13 回

北広島市教育委員会会議録

日時：平成 29 年 10 月 2 日（月）
午後 3 時 00 分～4 時 20 分
場所：市役所 4 階会議室

○目 次

開会宣言	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
日程第1	会議録署名委員の指名・・・・・・・・	1
日程第2	会議録の署名・・・・・・・・	1
日程第3	教育長報告・・・・・・・・	1～3
日程第4	議案第1号 北広島市教育施策審議会委員の委嘱について【非公開】・・・	3
	議案第2号 平成29年度北広島市スポーツ賞等受賞者について・・・	3～5
	議案第3号 平成29年度北広島市文化賞等受賞者について・・・・・・・・	5～6
	議案第4号 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果公表について・	7～15
日程第5	そ の 他・・・・・・・・	16
閉会宣言	・・・・・・・・・・・・・・・・	16

出席者	教育長	吉田孝志	説明員	教育部長	水口真
	教育委員 (教育長職務代理者)	松本 懿		教育部次長	佐藤直己
	教育委員	大山秀之		学校教育課長	河合一
	教育委員	成田郁久美		小中一貫教育課長	富田英禎
	教育委員	石上浩子		文化課長	丸毛直樹
				エコミュージアムセンター長	小島晶
			学校給食センター長	鈴木靖彦	
			社会教育課主査	齋藤洋平	
			学校教育課指導主事	小島雅人	
			記録員	教育総務課主査	花田秀樹
				教育総務課主事	竹谷智史

開会 午後3時00分

(議 事 の 経 過)

◎開会宣言

○吉田教育長 ただいまから、平成29年第13回教育委員会会議を開会いたします。
議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

◎日程第1 会議録署名委員の指名

○吉田教育長 日程第1、会議録署名委員の指名を行います。本日の会議録署名委員として、石上委員を指名いたします。

○吉田教育長 日程第2に入ります前に、本日は、議案第1号が、教育委員会会議規則第16条の1号に該当いたしますことから、非公開とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○吉田教育長 異議なしと認め、議案第1号につきましては、非公開といたします。

◎日程第2 会議録の署名

○吉田教育長 日程第2、会議録の署名についてであります。平成29年第10回教育委員会の会議録につきまして、署名委員であります松本委員に本会議終了後、署名を頂きたいと思っております。

◎日程第3 教育長報告

○吉田教育長 日程第3、教育長報告に入らせていただきます。

○吉田教育長 今回は、教育長報告3点と、一般行政報告を教育部長のほうから4点にわたって報告させていただきます。

まず始めに、創意工夫展についてであります。児童生徒の科学技術への興味を高め、日常生活を豊かにしようとする心情を養い、創意・創造性を培うことを目的とし、北広島市学校文化事業委員会と共催で実施している事業であります。

今年度は、189作品の出品があり、北広島市芸術文化ホールギャラリーにおいて9月14日(木)から18日(月)まで展示を行ったところであります。

9月16日(土)には、児童生徒30名の作品を表彰いたしました。表彰作品のうち、郭(くおつ

く 大曲東小学校3年生)さんの作品「水圧ロボットアーム」と勝呂(かつろ 広葉中学校2年生)さんの作品「エコソーラークッカー」が、札幌市青少年科学館において、12月2日(土)・3日(日)に開催されます全道展に出品されることとなりました。

次に、危機管理対応についてであります。8月29日(火)と9月15日(金)の早朝、北朝鮮による弾道ミサイル発射直後に、Jアラートを使用した緊急速報メール等による情報の伝達があったところであります。

市教育委員会では、9月26日(火)に開催されました教頭会において、北海道教育庁からの通知「北朝鮮による弾道ミサイル発射に係る対応について(9月8日付)」をもとに、対応を確認したところであります。

今後、指導や対応のあり方を含め、学校安全計画の見直しなどが必要になってくるものと考えているところであります。

次に、地域への学校公開についてであります。中学校の学校祭が、9月30日(土)に開催され、各学校ではそれぞれテーマを掲げて取組み、成果を発表したところであります。

今後、小学校の学芸発表会が、10月21日(土)に実施されます。(西の里小学校陽香分校は11月19日(日))

委員の皆さまにおかれましても、最寄りの学校の発表会をご覧くださいますとともに、学校や子ども達に励ましの言葉を掛けていただければ幸いに存じます。

○水口教育部長 続きまして、一般行政報告に入ります。

まず始めに、音楽の集いについてであります。中学校が10月5日(木)午後1時20分から、小学校が、10月25日(水)と26日(木)の2日間で、両日とも午前9時45分から、芸術文化ホールの花ホールにおいて開催されます。

この催しは、市内の児童・生徒が音楽の学習成果を発表し、鑑賞し合い、互いの交流を深める中で、音楽教育の充実発展を図ることを目的としております。

各校の発表をご覧くださいいただけます。

次に、小中一貫教育パネル展の開催についてであります。来年度から全市で一斉に導入する小中一貫教育について、各中学校区の取組を中心に紹介することとしております。

会場は、10月11日(水)から25日(水)までは、夢プラザ(大曲)において、11月13日(月)から21日(火)までは、市役所5階市民ギャラリーにおいて、11月14日(火)から20日(月)までは、エルフィンパークにおいて開催いたします。

なお、本市の小中一貫教育に関するパンフレット等を作成し、会場において配布も予定しております。

次に、第37回公民館まつりについてであります。10月1日(日)に、中央公民館において、23団体が参加し、開催されました。

日頃公民館を利用するサークルや団体が、学習の成果の展示や発表をするほか、サークルの子どもたちが運営に携わる「子ども広場」も開設し、世代を超えた市民交流を図ったところであります。

当日は、天候にも恵まれ、約1,000名の方に来場いただきました。

次に、第38回読書まつりについてであります。10月13日(金)から15(日)まで、図書

館におきまして、ボランティア団体であります図書館フィールドネットを中心とした実行委員会により開催されます。

今回は、テーマを「海の中でもみーんな なかよし」とし、子どもたちによる発表やおはなし会、紙芝居などが行われます。最終日には、水中写真家の古見きゅう（ふるみ きゅう）さんをお招きし、講演会を行う予定としています。

多くの方にご参加いただき、読書の秋を楽しんでいただければと思います。

以上でございます。

○吉田教育長 皆さんのほうからご質問等ございますか。

（「なし」の声あり）

○吉田教育長 それでは、教育長報告につきましては、承認とさせていただきます。

◎日程第4 ○議案第1号 北広島市教育施策審議会委員の委嘱について【非公開】

【非公開案件の審議等の結果】

原案どおり可決した。（質疑等省略）

○議案第2号 平成29年度北広島市スポーツ賞等受賞者について

○吉田教育長 続きまして、議案第2号、平成29年度北広島市スポーツ賞等受賞者につきまして、説明をお願いいたします。

○佐藤教育部次長 議案第2号、平成29年度北広島市スポーツ賞等受賞者についてであります。北広島市スポーツ賞等表彰規則第4条の規定に基づき、受賞者を決定したいので教育委員会の議決を求めるものであります。

候補者の選考につきましては、北広島市スポーツ推進審議会へ9月21日に諮問を行い、4ページのとおり、同日付けで受けた答申に基づき、受賞者を決定するものであります。

審議会からの答申内容は、別紙資料1のとおりであります。

資料を1枚めくっていただきますと、1ページ目に各賞表彰候補者の状況を掲載しておりますが、今年度は合計で32件の答申をいただいております。

まず始めに、スポーツ賞についてであります。2ページをご覧ください。

田中 奨真（たなか しょうま）さんは、「第70回北海道高等学校選手権水泳競技（競泳）大会兼第85回日本高等学校選手権水泳競技（競泳）大会北海道予選会」の「男子200m個人メドレー」において優勝となられたことにより、高橋 臣（たかはし じん）さん及び熊野 壮平（くまの そうへい）さんは、「第42回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会」の「団体戦」において第3位になられたことにより、それぞれ基準に該当するものであります。

次にジュニアスポーツ賞についてであります。3ページをご覧ください。

野尻 桃羽（のじり とわ）さんは、「第1回全日本ジュニアスキー技術選手権大会」の「小学生女子の部」において優勝となられたことにより、大沼 樹生（おおぬま みきお）さんは、「平成29年度北海道中学校体育大会第38回北海道中学校相撲大会」の「個人戦」において優勝となられたことにより、今村 彩美（いまむら あみ）さんは、「第2回全国空手道選手権大会」の「小学4年女子の部組手」において第3位となられたことにより、4ページの熊谷 琉希（くまがい りゅうき）さんは、「第37回北海道少年少女空手道錬成大会」の「男子・個人形小学1年生の部」において優勝となられたことにより、土居 來斗（どい らいと）さんは、「第15回フルコンタクトカラテ錬成大会」の「小学3年生男子新人」において優勝となられたことにより、小野寺 さくら（おのでら さくら）さん、5ページの大瀧 慶人（おおたき けいと）さん、玉田 朱莉（たまだ しゅり）さん、大瀧 寧々（おおたき ねね）さん、玉田 優莉（だまだ ゆうり）さん、大友 蓮也（おおとも れんや）さん、大友 琴乃（おおともことの）さん、7ページの工藤 哲平（くどう てっぺい）さんは、「第27回全日本ドッジボール選手権北海道大会」の「全国予選部門混合の部」において優勝となられたことにより、仲上 航希（なかがみ こうき）さんは、「平成29年度第20回北海道小中学生相撲選手権大会」の「中学生男子軽量級」において優勝となられたことにより、8ページの北広島北の台JVC（きたひろしまきたのだいジュニアバレーボールクラブ）は、「ななかまど杯第22回北海道小学生バレーボール大会」の「男女混合の部」において優勝となられたことにより、それぞれ基準に該当するものであります。

次にジュニアスポーツ奨励賞についてであります。9ページをご覧ください。

岡 七葉（おかなのは）さん、岡 咲葉（おか さくは）さん、江戸 健太（えど けんた）さんは、「第35回北海道小学生陸上競技大会兼日清食品カップ第33回全国小学生陸上競技交流大会北海道予選会」において、岡 七葉（おかなのは）さんは、「女子5年800m」で第3位、岡 咲葉（おか さくは）さんは、「女子5年4×100mリレー」で第4位、江戸 健太（えど けんた）さんは、「男子6年4×100mリレー」で第3位となられたことにより、10ページの田島 想人（たじま そうと）さん、吉田 生人（よしだ いくと）さんは、「平成29年度北海道中学校体育大会第38回北海道中学校水泳大会」において、田島さんは「男子200m平泳ぎ」において第3位、吉田さんは、「男子100m平泳ぎ」において第3位となられたことにより、濱野 久玲愛（はまの くれあ）さんは、「2017ダンロップカップ北海道ジュニアテニス大会」の「16歳以下女子ダブルス」において準優勝となられたことにより、11ページの元木 綾那（もとぎ あやな）さんは、「2016ダンロップカップ北海道ジュニアテニス大会」の「10歳以下女子シングルス」において準優勝となられたことにより、伊藤 瑛介（いとう えいすけ）さん、伊藤 凌香（いとう りょうか）さんは、「第50回全日本空手道連盟和道会（わどうかい）北海道大会」において、伊藤瑛介（いとうえいすけ）さんは、「小学2年男子個人組手」において第3位、伊藤凌香（いとうりょうか）さんは、「小学5年女子個人形」において第3位となられたことにより、12ページの根田 うの（ねだ うの）さんは、「第37回北海道ジュニアゴルフ選手権競技」の「女子11歳以下の部」において第2位となられたことにより、13ページの北広島西の里カープジュニアは、「第46回全

道少年軟式野球大会」において第3位となられたことにより、それぞれ基準に該当するものであります。

次にスポーツ功労賞についてであります。14ページをご覧ください。

鈴木 利治（すずき としはる）さん、吉川 公久（よしかわ きみひさ）さんは、北広島サッカー少年団の指導員として、16年の長きにわたり、市のスポーツ発展に貢献した功績により、宮越 茂（みやこし しげる）さんは、北広島パークゴルフ協会の役員及び指導者として30年の長きにわたり、市のスポーツ発展に貢献した功績により、それぞれ基準に該当するものであります。

以上が提案の内容であります。

○吉田教育長 ただいまの議案第2号、平成29年度北広島市スポーツ賞等受賞者につきまして、ご質疑等ございますか。

○大山委員 ドッジボール大会は、この先、全国大会があるということでしょうか。

○齋藤社会教育課主査 この大会は全国予選大会で、この後、全国大会が行われております。

○吉田教育長 なぜ個人表彰なのですか。

○齋藤社会教育課主査 この団体は、江別市の子どもたちと北広島市の子どもたちで組織されている団体でございます。スポーツ賞の表彰基準としましては、北広島市民の小学生、中学生のみで構成されている団体の場合は、団体での申請が可能となりますが、この団体のような場合は、個人での申請となります。

○吉田教育長 そのほか何かございませんか。

（「なし」の声あり）

○吉田教育長 それではお諮りいたします。

議案第2号、平成29年度北広島市スポーツ賞等受賞者につきまして、原案のとおり決することによってよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○吉田教育長 議案第2号につきましては、原案どおり可決いたします。

○議案第3号 平成29年度北広島市文化賞等受賞者について

○吉田教育長 続きまして、議案第3号、平成29年度北広島市文化賞等受賞者につきまして、説明をお願いいたします。

○佐藤教育部次長 議案第3号、平成29年度北広島市文化賞等受賞者についてであります。北広島市文化賞等表彰規則第5条の規定に基づき、受賞者を決定したいので教育委員会の議決を求めらるものであります。

候補者の選考につきましては、北広島市芸術文化振興審議会に9月14日に諮問を行い、6ページのとおり、同日付けで受けた答申に基づき、受賞者を決定するものであります。

審議会からの答申内容は、別紙資料2のとおりであります。

資料を1枚めくっていただきますと、1ページ目に各賞表彰候補者の状況を掲載しておりますが、今年度も昨年同様の合計7件の答申をいただいております。

それでは、各賞候補者の概要については2ページ以降よりご説明いたします。

まず始めに、文化貢献賞であります。2ページをご覧ください。

伊藤 栄一（いとう えいいち）さんは、北広島市文化連盟会長等を歴任し、北広島市の文化の発展に20年に渡り、寄与した実績により基準に該当するものであります。

次に、青少年文化賞であります。3ページをご覧ください。

牧野 楓也（まきの ふうや）さんは、JpGU-AGU Joint Meeting 2017パブリックセッション「高校生によるポスター発表」最優秀賞を受賞し、基準に該当するものであります。

4ページの札幌日本大学高等学校放送局は、第41回全国高等学校総合文化祭宮城大会ビデオメッセージ部門優秀賞第1位を受賞し、基準に該当するものであります。

次に、青少年文化賞奨励賞であります。5ページをご覧ください。

矢萩 有（やはぎ ゆう）さんは、JR北海道第23回「鉄道の日」児童絵画展低学年の部大賞を受賞し、基準に該当するものであります。

三浦 花音（みうら かのん）さんは、第11回北海道小・中・高生短歌コンテスト最高位特別賞北海道立文学館賞を受賞し、基準に該当するものであります。

6ページの札幌日本大学高等学校吹奏楽部は、北海道吹奏楽コンクール2017で金賞を受賞し、基準に該当するものであります。

札幌日本大学高等学校スーパーサイエンスハイスクールは、平成29年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会奨励賞全国2位を受賞し、基準に該当するものであります。

以上が提案の内容であります。

○吉田教育長 ただいまの議案第3号、平成29年度北広島市文化賞等受賞者につきまして、ご質疑等ございますか。

○大山委員 ポスターや短歌は、一般の方が見ることはできるのでしょうか。

○丸毛文化課長 絵画につきましては、可能な限りお借りできるのであればお借りして、当日、会場の一角に展示させていただきたいと考えています。昨年もそのようにさせていただいております。

短歌につきましては、当日、式の中で、口頭で披露させていただきたいと思っております。

○吉田教育長 そのほか何かございませんか。

（「なし」の声あり）

○吉田教育長 それではお諮りいたします。

議案第3号、平成29年度北広島市文化賞等受賞者につきまして、原案のとおり決することによってよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○吉田教育長 議案第3号につきましては、原案どおり可決いたします。

○議案第4号 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果公表について

○吉田教育長 続きまして、議案第4号、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果公表につきまして、説明をお願いいたします。

○佐藤教育部次長 議案第4号、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果公表についてですが、本市の調査結果につきまして、別紙資料3のとおり公表したいので、北広島市教育委員会事務委任等規則第2条の規定により、教育委員会の議決を求めるものであります。

この調査は、本年4月に文部科学省が全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語、算数・数学の2教科の学力と学習習慣、生活状況などについて、悉皆により実施したものであり、本市においては全ての小中学校が参加したところであります。

学力調査の結果の公表にあたりましては、国の「平成29年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」において「市町村が設置管理する学校全体の結果について、それぞれの判断において、公表することは可能であること」とされておりますが、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要であることから、本市の平均正答率や学校ごとの比較などはせず、全国の平均正答率を基準にした表現により具体的な傾向を示すこととしております。

また、学習状況調査の結果につきましても、学力と学習状況には深い相関関係があることから、合わせて公表することとしております。

教育委員会といたしましては、この結果を各学校に配布するとともに、次年度の学校教育の推進方針に反映させてまいりたいと考えております。

なお、この内容につきましては、今月23日開催予定の建設文教常任委員会で報告してまいりたいと考えております。

詳細につきましては、小島指導主事からご説明申し上げます。

○小島学校教育課指導主事 学校教育課指導主事の小島です。よろしくお願いいたします。

教育委員会では、主に学力・体力向上を担当しております。お手元の資料をもとに、平成29年度全国学力・学習状況調査における北広島市の結果を報告いたします。

この報告書の前に、全国学力・学習状況調査についてご説明します。この調査は平成19年に始まりました。途中、平成23年に東日本大震災がありまして、この年は調査が行われておりませんので、今回で10回目ということになります。

平成24年からは理科も教科の中に加えて、3年に1回という頻度で実施しております。平成31年には、中学校で英語の調査も開始されます。

今年度の結果については、8月28日の新聞でも公表されておりますが、全国的に児童生徒の学力が高くなってきているということが報道されておりました。また、北海道についても、全国平均正答率は上回っていないのですが、全国と近い正答率になっていたということでもあります。全国的には、石川県、秋田県、福井県が高いという結果になっております。

北広島市の状況ですが、石狩管内の中では上位の方になります。先日、石狩教育局の指導主事からは、数年来、安定したポジションの中におり、心配ありませんというお話をいただきました。

それでは、報告書の中身についてご説明いたします。

1 ページに調査結果報告がございます。調査の目的、調査対象、調査の方式は資料に書いてあるとおりで、教科は小学校6年生が国語と算数のA・B問題、中学校3年生が国語と数学のA・B問題となっております。

Aの問題というのが、身につけておかなければならない後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容、つまり基礎に当たる問題で、Bの問題が、そういった知識・技能を活用する応用的な問題となっております。このほかに、質問紙というものがあまして、児童生徒に対するアンケート調査と、学校に対するアンケート調査があります。学校に対する調査は、管理職が回答することになっております。

学校では、どのようにこのテストを行うかという、1時間目に国語と算数または数学のA問題を2つ実施します。2時間目に国語のB問題、3時間目に算数または数学のB問題、4時間目に質問紙のアンケートに回答するという、午前半日を使ってこれらの問題をやります。

資料を1ページめくっていただきますと、調査実施日と調査を受けた児童生徒数が書いてあります。

調査結果の掲載方法については、先ほど佐藤次長からも申し上げましたように、北広島市の数値については公表しないこととしておりますので、この資料にも載せていません。ただし、全国と全道の調査結果については公表されています。

調査結果の表示については、全国の平均正答率と比較をして文言で表記しています。正答率はパーセントですが、+9ポイント以上は「高い」、+3ポイント以上+9ポイント未満については「やや高い」、±3ポイント未満が「同様」であるとしています。その下の、-3ポイントから-9ポイントの間は「やや低い」、-9ポイント以下だと「低い」というように、「高い」、「やや高い」、「同様」、「やや低い」、「低い」、という言葉で表しております。

それでは、今年度の市内小学校の結果ですが、3ページをご覧ください。

教科全体の状況をレーダーチャートのグラフで表しています。全国が青、北海道が緑、北広島市が赤となっています。これを見ると、概ね全道は超えています、全国とほぼ同様となっています。ただし、算数Bに関しては少し下回っているというのが分かると思いますが、この理由は後ほど説明します。

レーダーチャートの下に、全国・全道との比較を示しています。±3ポイント以内だと「同様」と書くのですが、その「同様」の中でも全国・全道平均正答率を超えているものについては、赤字にしています。

小学校では、国語A、国語B、算数Aは全国平均正答率を超えています、算数Bは全国よりやや下回っています。その下に資料で標準化得点の推移を平成26年度分から載せていますが、全国平均正答数を100とすると、平成29年度は国語Aが100、国語Bが101、算数Aが101、算数Bが96ということで、この表を見てもここ数年で一番良い結果となっております。

次に4ページをご覧ください。4ページからはそれぞれの教科について詳しく書かれています。国語A、つまり基礎の部分です。学習指導要領の領域では、「話すこと・聞くこと」、それから「伝統

的な言語文化と国語との特質に関する事項」というのが全国を超える正答率になっています。

その下に、どういった部分が高いのかというところを書いてあります。

国語Aにおいては、漢字を書くことが全国と比較して9ポイントも超えているということで、非常によくできているということがわかります。

一方、3ポイント以上下回った問題というのは、手紙の日付等の書き方が「やや低い」、それから俳句が「やや低い」という結果になっております。

次に、無回答率というのがあるのですが、これは問題に対して回答欄に何も書かなかった率のことです。北広島市は小中学校ともに、国語、算数、数学の全ての問題で無回答率は全国よりも低い数値になっておりました。これは、子どもたちが、分からない問題についても一生懸命頑張って回答した結果の表れかなと思います。

それでは、応用部分の国語Bの全体的傾向ですが、赤字が並んでいるように、全国平均正答率を超えている分野が多いという結果になっております。

次に6ページをご覧ください。昨年、一昨年ではやや低かった、書くということが高くなっております。これまでは、なかなか子どもたちは書けなかったのですが、自分の考えをまとめる、それからスピーチメモを使うことのよさを書く、そういったことが国語Bの学力の向上につながっています。

続きまして、算数Aについてです。算数Aも、国語同様、全国平均を超えている分野が非常に多いです。「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」で全国平均正答率を超えています。

7ページをご覧ください。国語は漢字がよくできておりましたが、算数は計算がよくできています。これは、各学校で漢字の繰り返しや計算練習をしっかりとやっていた成果ではないかと思うのですが、足し算、小数の計算、それから整数の乗法、こういったものが全国と比較して「やや高い」といった結果になっております。一方、全国と比較してやや低いのは円の問題でした。

続きまして、算数Bです。算数Bも「量と測定」、「図形」、「数量関係」とも、全国との比較では「同様」ですが、全道と比較すると北広島市が上回っている状況にありました。

8ページをご覧ください。全国より3ポイント以上上回った問題というのは割合の問題であり、全国より3ポイント以上下回った問題は、数と計算になっています。先ほどのレーダーチャートでは、算数Bの学力は全国を下回っていましたが、実は、全国を下回っている問題は1問だけなのです。

どういう問題かといいますと、月が大きく見えるときと小さく見えるときがありますが、その大きくなる割合というのは14%です。そこで、最も小さく見えるときの月の大きさを1円玉とすると、最も大きく見えるときの大きさは100円玉か500円玉かという問題だったのです。

正解は100円玉なのですが、北広島市の回答は500円玉が多かったのです。なぜ500円玉が多かったのかといいますと、北広島市の子どもたちは素直なのです。この問題の図の月が500円玉くらいの大きさになっているのです。それで500円玉が多かったのではないかと思います。きちんと計算すれば答えは出てくるのですが、図を見て答えた結果が、先ほどのレーダーチャートの差になったのではないかと思います。

それでは、続いて中学校の結果に移ります。

中学校は昨年度よりも平均正答率は若干、低くなりました。昨年度は、中学校が高くて、小学校が

やや低かったのですが、今年度は中学校がやや低くて、小学校が高いという結果となりました。ただし、このレーダーチャートを見ると、ほぼ全国、全道に重なっていることが分かります。

次に、10ページをご覧ください。

標準化得点の推移を見ても、やはり国語Aであれば昨年度の101から98に下がっています。国語Bは上がっているのですが、数学も昨年度より若干下がっているといった状況になっております。

それぞれの教科の評価を見ていきますと、国語Aについては、ほぼ全国と同様といった結果になっております。ただし、11ページにありますように、3ポイント以上上回った問題は2問、3ポイント以上下回った問題は7問といったことで、先ほどの標準化得点が昨年度の101から98に下がったという結果に表れております。ただし、低いといっても、「やや低い」といったことで、3ポイントに近い部分ですので、その辺が先ほどのレーダーチャートにも表れたのだと思います。

続いて、12ページをご覧ください。国語Bの全体的傾向ですが、これも全国、全道と同様になっております。全国より上になったのは「読むこと」、それから「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」等です。

続いて、13ページをご覧ください。数学Aですが、全国を超えているのは「関数」と「資料の活用」です。全国と比較して3ポイント以上上回った問題は、度数分布、一次関数、錯角となっております。

14ページをご覧ください。全国よりも3ポイント以上下回った問題は国語よりは少ないのですが、文字式や、加減乗除を含む正の数と負の数の計算といった部分がやや低いのが残念な結果でありました。

続いて数学Bですが、応用のところでの数学に関しては、全国を上回る部分は「図形」と「資料の活用」でした。3ポイント以上上回った問題と下回った問題は資料に書いてあるとおりです。

以上が、教科に関する結果概要です。

続きまして、質問紙調査の結果概要ということで、アンケートの数値を全て洗い出し、高いものを拾い出して、北広島市の状況を探りました。

まず小学校からですが、全国を上回るものをまとめますと、北広島市の小学生は、家で学校の授業の復習をしている、自分で計画を立てて勉強をしている、地域社会などでボランティア活動に参加している、という結果となっております。

そこで、特徴的な部分を「生活習慣」、「自分の理解と周囲への意識」、「授業や教科の学習」といった分類でまとめました。

上段の数値が今年度、下段が昨年度という比較をするようにしました。すると、「生活習慣」では、家に帰ってテレビ、ビデオ、DVD、テレビゲーム、スマートフォンでメールやインターネットをしている数値を見ますと、昨年度よりも、テレビ、メール、インターネットをする時間が増えていることが分かります。

全道との比較では下回っているのですが、全国との比較では超えているという現状にあります。そこが少し危惧される部分です。

ただし、学校の授業時間以外に普段どのくらい勉強していますかという質問においては、1時間以上しているという回答が増えています。家庭学習の時間も増えています。すると、テレビも見て、イ

ンターネットもして、勉強もしているということで、子どもたちは毎日、結構忙しい生活をしているのかなと感じられます。

続きまして、自分で計画を立てて勉強しているといった回答が多いです。これは非常にいい傾向です。それから、家で学校の授業の復習をしているというのが、全国と比べて20ポイントも高い結果となっています。予習のほうは56.4%でやや低いのですが、全国と比較すると約15ポイント上となっております。家庭学習で復習、予習をしっかりと行っているというのも北広島市の子どもたちの特徴だと思います。

「自分の理解と周囲への意識」のところでは、先ほどお話ししましたように、ボランティア活動への参加が全国的、全道的にも高い結果となっております。

それから、学校のきまりを守っている、人が困っているときはすすんで助ける、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う、人の役に立つ人間になりたいと思う、これらは昨年とほぼ同様ですが、80%または90%以上の高い数値を示しております。

「授業や教科の学習」のところでは、授業のはじめに目標が示されていたと思うか、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思うか、ノートに学習の目標とまとめを書いていたか、といった部分は、昨年度よりやや下回っていますが、ほぼ同様の結果です。

設問番号69の国語の勉強が好きだ、設問番号78の算数の勉強が好きだというのが低い結果となっております。国語の勉強に至っては、全国から11ポイント低いということで、国語がなぜ嫌いなのかといったところはしっかり分析しなければなりません。しかし、一般的に子どもは国語や算数の勉強よりも体育や図工のほうが好きだと感じるのではないのでしょうか。そこを頭に入れると、このように聞かれたときに、国語は嫌いだというよりも、他の教科と比べるとそれほど好きじゃないと答えるかもしれません。そのため、このアンケートの答え方にも原因があるのではないかと分析もしています。

続いて18ページをご覧ください。中学校の調査結果です。

同じく特徴的なところを結果からまとめると、小学校と非常に似ているのですが、北広島市の中学生は、地域社会などでボランティア活動に積極的に参加している、家で学校の復習をよくしている。そして、次が非常にいいと思った部分なのですが、読書が好きで新聞もよく読んでいます。

「生活習慣」では、先ほど小学校でご説明したものと重複しますが、ビデオ、DVD、テレビゲーム、スマートフォンの使用時間が中学校も昨年より若干増えています、全国とほぼ同様の数値です。

小学校と違うのは、1時間以上勉強している中学生がやや少ないといったことです。家で学校の復習をしているのは、小学校同様です。

「自分の理解と周囲への意識」のところでは、地域社会で起こっている問題や出来事に関心があるというのも全国より上回っています。新聞を読むというのも上回っています。それから、ボランティア活動への参加は、小学校と同様に非常に高く、全国よりも約21ポイント高い結果となっております。

「授業や教科の学習」については、これも小学校と同様で、国語の勉強が好きだ、数学の勉強が好きだというのが全国より低い結果となっております。これについては、先ほどもお話ししましたが、原因についても探っていきたいと思います。

続きまして、20ページをご覧ください。学校質問紙調査の結果からです。

先ほど最初のほうで説明しましたが、このアンケートに答えたのは、児童生徒ではなく、各校長、教頭となっています。

昨年度の結果が青い部分です。授業の中で目標を示す活動を計画的に取り入れているか、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れているか、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしているか、といったことで、昨年度も高かったのですが、これは北広島市の特徴で、北広島市学校教育の推進方針の中にもあることから、しっかり管理職でも押さえられています。

しかし、先ほどの児童生徒質問紙の結果にもありましたように、学校では働きかけていますが、子どもたちのほうについてはまだまだといったことがわかります。

今年度の大きな特徴がその下にあります。小中一貫教育実施といったことをしっかり、各学校で受けとめているといったことであります。例えば、近隣の中学校または小学校と教育目標を共有する取り組みを行いましたかというのが、上段が小学校で下段が中学校ですが、それぞれ全国に比べて20ポイント以上高い結果となっております。

また、小学校で教わることを中学校に繋げるといったことを教育課程の接続と言いますが、教育課程の接続や教科に関する共通の取り組みについては全国よりも約40ポイント高くなっております。

それから、この全国学力・学習状況調査の分析結果を近隣の中学校または小学校で成果や課題を共有したかという質問に至っては、全国と比べて小学校で73ポイント、中学校で65ポイントですから、非常に高い数値となっております。

続いて、クロス集計の結果概要なのですが、これはどういった集計かといいますと、例えば算数の勉強は大切だと思いますかという質問に対し、大切だと答えた子どもの国語、算数の平均正答率は上のグラフで、大切でないと答えた子どもの平均正答率は下のグラフです。

すると、この幅が広いほど関係は顕著だということになります。つまり、勉強が大切だと思っていなければ学力は上がってこない、授業の内容がよくわからないと学力は上がってこないということを示しています。これは、全ての問題をこの表にしたのですが、中にはこの幅がなくなるものもあります。小学校の結果で特徴的なのは、友達との約束を守っていますか、毎日同じぐらいの時刻に寝ていますか、読書は好きですか等、こういった生活のことや読書というのが学力にも大きく関係しているのだということがわかりました。

続いて22ページをご覧ください。こちらは中学生の結果ですが、ここでも特徴的なのは、朝食を毎日食べていますか、友達との約束を守っていますか、読書が好きですか、これも学力に関係しているということがわかりました。

最後に総評ですが、(1)から(5)については、ここまでご説明してきましたので省略いたします。(6)に「今後の北広島市の取組」ということで書いていますが、今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、本市では概ね全国と同様でした。ただし、小学校では3教科が全国平均を超えるなど、確実に市内の児童生徒の学力は向上していると言えます。

同時期に各学校では、全国学力・学習状況調査のほかに小学校2年生以上、中学校3年生まで全ての学年でNRT（標準学力検査）というのを実施しています。こちら分析をしているのですが、実

は、このNRTの結果も全国平均のSS50を全学年、全教科で超えています。ということで、非常によい結果になっているという点も押さえていただきたいと思います。

中学校区の小中一貫教育といったことが先ほどありましたが、小学校、中学校で学力を交流することで、9箇年で子どもたちを育てていこうという先生方の気運も非常に高まってきています。また、小学校のときにこういったことができていない、中学校でこういった部分を教えてさらに伸ばしてやろうといったことで、学力については学校差というのがありますが、そういったものを解消する一つのきっかけになっているのではないかと考えています。

この全国学力・学習状況調査の結果については、8月、9月に佐藤次長と指導主事で、各学校を回って、はっきりと数値を示して、こういった点が悪い、だから授業改善もこうしなければならないといったことを校長、教頭、教務を交えて、全ての中学校区でお話をしてきました。

そういうことで、この全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、日々の授業改善や学校全体でしっかり取り組んでいくという気運が高まっていけばよいと思います。

この報告書をもとに前回の教育委員会会議で示した北海道の公表のように、北広島市の全国学力・学習状況調査結果をまとめていきたいと思っています。ポイントは小中一貫教育等にしていきたいと思っています。

長くなりましたが、以上です。

○吉田教育長 ただいまの議案第4号、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果公表につきまして、ご質疑等ございますか。

○大山委員 算数Bは3ポイント以上低いと思ったのですが、それでも「同様」なのですね。

○小島学校教育課指導主事 1問だけ見ればそうなのですが、算数B全体で見ると-3ポイントを超えないのです。

○大山委員 資料の3ページの標準化得点の推移のところでは、北広島市は96となっていますが。

○小島学校教育課指導主事 これは全国平均正答数を100として見たときの標準化得点の差なので、正答率ではないのです。

○大山委員 参考までにお聞きしたいのですが、石川県、秋田県、福井県がもしこのレーダーチャートに入るとすると、全国を100としたときにどのような数字になるのでしょうか。

○小島学校教育課指導主事 全国を100としたときに、105は超えております。全国は大体真ん中ですから、そこを超えていることになります。

○大山委員 小学校も中学校もでしょうか。

○小島学校教育課指導主事 はい。

○松本委員 何点かあるのですが、1点目です。新聞報道で日本の学力が上がってきているというような評価がありました。この全国学力・学習状況調査が始まって間もないころ、文部科学省の担当の方が新聞記者の、日本の子どもの学力は上がったのか、下がったのかという質問に対して、問題が違うからわかりませんと答えたのです。ということであれば、去年、あるいは二、三年比較しても学力が上がった、下がった等は言えないはずですが、そう言えるということは、設問の工夫を凝らして、経年変化を見られるような安定的な出題に変わってきているのでしょうか。

○小島学校教育課指導主事 PISAという国際学力調査があるのですが、平成19年ころ、日本は数学や理科の点数が、非常に大きく下がりました。これを受けて、全国学力・学習状況調査が始まったのです。全国学力・学習状況調査を始めた平成19年、20年、21年は、PISAでは日本はまだ下のほうだったのですが、今は上がってきています。

全国学力・学習状況調査のテストの内容もPISAと似ている部分もあります。ですので、問題が違うから比較はできないのかもしれませんが、世界的に見ても上がってきているということを国も認識しています。

○吉田教育長 PISAの日本の順位はやや上がってきている。それと全国学力・学習状況調査におけるB問題、つまり知識・技能を活用する応用的な問題が増えてきている。ですから、経年で比較しても出題傾向が変わってきているので意味があるのかという論点になると、それはよく注意してみないといけませんね。

○松本委員 出題のレベルといいますか、工夫がされてきているのですね。

次に2点目ですが、表記の仕方で、9ポイント以上が「高い」、3ポイント超えると「やや高い」等の評点ですが、これは北広島市独自の表記なのでしょう。

○小島学校教育課指導主事 そうです。

○松本委員 他の市町村が同じような表記をしているとは限らないのですか。

○小島学校教育課指導主事 ほぼ同じです。

○松本委員 ほぼ同じですか。他の市町村の結果を見たときに、表記がずれていると比べられませんが、概ねこういう調整をされているということですね。

3点目ですが、今回は小学校6年生が比較的高くて、中学校3年生がやや厳しいとしても、だから中学校はどうだということにはならなくて、この中学校3年生が小学校6年生だったときの成績はどうだったのかというような考察はできるのでしょうか。

○小島学校教育課指導主事 この全国学力・学習状況調査は小学校6年生と中学校3年生ということで、学年が離れているのですけれども、先ほど申し上げたNRT検査というものは、小学校2年生から全学年で実施しております。その経年変化をグラフにしましたところ、小学校2年生から中学校3年生まで、右肩上がりになっていることが分かりました。

国語と算数しか検証できないのですが、今回の中学校3年生については、しっかりと上がっていました。

○吉田教育長 NRTは学年集団としての平均値は着実に伸びているということですね。

○佐藤教育部次長 全国学力・学習状況調査で言えば、今の中学校3年生が小学校6年生のときと問題が違いますし、正答率が必ずしもそのまま学力と直結するものではないのですが、全国との傾向として、A問題はこの3年間で、国語も数学も伸びています。逆に、B問題は全国との差が小学校のときよりも若干、開いているという傾向となっております。ただし学校区により異なります。

○河合学校教育課長 今年度の全国学力・学習状況調査において、小学校6年生が回答用紙に記入した個人票コードというのがありますが、中学校3年生の全国調査の際、小学校のときに使用した個人票コードを回答用紙に記入することで、同一児童生徒に関する小学校調査と中学校調査の結果の関

係について分析ができるよう実施要領が改められました。この分析のためには、個人情報保護条例等に基づき、保護者の同意が必要か否か等について設置管理者が判断し、準備を進めるよう文部科学省から通知がきております。

この件の詳細がわかりましたら、またご報告したいと思います。

○吉田教育長 小学校6年生に全国学力・学習状況調査を受けたときの平均正答率が、中学校3年生になったときにどのような変化となっているのか。個人内で比べられるようなデータ処理を今後したいという動きがあります。個人情報の扱いですとか、保護者の同意の取り方が課題になっているのですが、松本委員がおっしゃるように個人の伸びをどのように見取っていくかという、一つのツールとしては検討されているという状況です。

○松本委員 そういう観点もあってもいいのではないかと思います。

最後にもう1点ご質問します。学校外での勉強時間の中には、塾の時間も含むのですか。

○小島指導主事 含まれています。

○吉田教育長 全国との平均正答率の比較は、本当は5段階で示すのですが、今までの表記だと「同様」については全国よりも上か下かわかりませんでした。そこで、今回、「同様」を赤と黒で色分けし、6段階のイメージで公表するというのが去年から変わっております。それが出ることによって、下回っているところが3ポイント以下でなくても、改善されたかどうかが見やすくなり、今後の分析の元となります。そういう意味で「同等」の部分についてはこのような示し方をしたのですが、ご同意いただければと思います。

○吉田教育長 そのほか何かございませんか。

(「なし」の声あり)

○吉田教育長 それではお諮りいたします。

議案第4号、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果公表につきまして、原案のとおり決することよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○吉田教育長 議案第4号につきましては、原案どおり可決といたします。

◎日程第5 その他

○吉田教育長 日程第5、その他につきまして、事務局から説明願います。

○佐藤教育部次長 次回の教育委員会の日程についてお諮りいたします。

次回、平成29年第14回につきましては、11月10日の金曜日、時間は午後3時00分から、場所は同じく市役所4階の会議室で開催させていただきたいと思います。

議案としましては、市議会定例会提出議案についてであります。

以上でございます。

○吉田教育長 次回、第14回の定例会は、11月10日の金曜日、午後3時から、場所は今回と同じく市役所4階会議室で開催ということで皆さまよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

◎閉会宣言

○吉田教育長 以上で第13回教育委員会会議に付議された議事は全て終了いたしましたので、これにて閉会いたします。本日はご苦労さまでした。

午後4時20分 閉会

以上、会議を記録し、正確を期するためにここに署名する。

教 育 長

署 名 委 員
